

株式会社三菱総合研究所 第 54 回定時株主総会
2023 年 12 月 19 日 10:00～
質疑応答(要旨)

1. 国内において原子力発電所が續々再稼働されつつあるが、自然エネルギーを含めた長期のエネルギーミックスについていかに対応されていくのか。原発については新型のリプレースや核燃料サイクルの利用など、長期の分析と対応を教えてください

原子力については、国が再稼働を許可した発電所の推進が大前提となる。エネルギーミックスについては、2050 年のカーボンニュートラル実現に向け、まずは電力部門の早期ゼロエミッション化に戦略的に取り組みたい。一方、再エネルギー導入や、水素・アンモニアなどの新たなエネルギー源の活用には、コストや技術開発面などで様々な問題があると認識しており、こうした課題にひとつずつ取り組むことで、持続可能な社会の実現を目指してまいりたい

2. 「商業宇宙活動行動規範(Washington Compact)」に署名されているが、中国・ロシア等が独自の宇宙開発を進めるなか、宇宙の安全性や商業利活用についてどのような対応をしていくのか。技術的な発展がある一方で、安全性に懸念があると考えており、人工衛星利用ビジネスの増加について、当社の分析と対応を教えてください

ワシントンコンパクトは、オランダ・ハーグにある国際シンクタンク Hague Institute が、民間宇宙活動の持続性確保に必要な最低限の原則を宣言したものであり、当社としては非常に賛同できる内容と判断した。また、人工衛星の数が非常に多い現在、宇宙環境の保全が大きな問題・課題となっていく。この課題に対し、当社は政府の制度設計(ルールメイク)支援や、持続的な宇宙開発が可能となるような民間活動の支援に取り組んでいる

3. 生成 AI の社内での利活用について説明があったが、顧客や他社への提供もあり得るのではないかと。あり得るのであればどのような内容か教えてください

ご指摘の他社への提供は、まさに現在その取り組みを進めているところである。経験値に基づく業務や非定型の業務は、従前の IT や認知 AI の適用が難しい領域であり、これを生成 AI で代替していく取り組みを進めている。当社業務にかなり適用しやすいこともあり、まずは社内での利用し、その良い成果をお客様に提供するというサイクルに取り組んでいる。シンクタンクでは、まず調査をし、結果を取りまとめ、レポートするという業務が多いが、こ

うした一連の作業に生成 AI を活用・自動化する「ロボリサ」というサービスの提供を開始、
広く推進しているところであり、当該分野の強化を図ってまいりたい